みなみたま

会 報「みなみたま」第12 号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　小林　幹彦
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

あなたの寄付が南多摩の未来を創る

南多摩同窓会あかね会会長　小林 幹彦

新型コロナウイルス感染症の世界的流行が、同窓生皆様の生活にどのような影響を与えているだろうかと想像すると、ただただ皆様のご健康を祈らずにはいられません。皆様の新たな日常でのご活躍を心から願う今日この頃です。

さて、昨年度は同窓会の活動も今までとは違った取り組みを強いられました。総会も南魂祭も新年会も中止となりました。しかし、母校、南多摩中等教育学校への支援を滞らせたわけではありません。母校の生徒たち、そして教職員の皆さんはこのような状況の中でも様々な工夫を凝らし、立派に頑張っています。実に頼もしい限りです。ですから、同窓会としても今まで通りの支援を続けさせてもらいました。

同窓会の使命は大きく二つあると思います。一つは同窓生相互の懇親です。もう一つは母校への支援です。私は今、ここで同窓会による現役生徒への支援がいかに大切かということを皆様に訴えたいと思います。

母校、南多摩中等教育学校は皆様よくご存じのように都立学校です。東京都が設置している学校です。したがって学校経営に必要な資金は東京都が負担しています。ところが、必要なものがいつでも何でも東京都から支給されるわけではありません。もちろん我儘な要求に都が応じる必要はありませんし、そのような要求をすること自体が間違っているわけです。ここで訴えたいのはそのような問題ではなく、学校が悪いわけではなく、東京都が悪いわけでもないが必要なお金が生じるということです。そのことにどのように対処するかという問題です。東京都という地方公共団体が、都民への公平性ということを考えて大切な資金を使うとなると、どうしても小回りの利かない部分が生じてしまいます。そして実際の教育活動で、現役生徒やそのご家庭に無理な負担がかかってしまうことがあるのです。

令和２年度にこんなことがありました。

コロナ感染症対策としてタブレット端末を使用することになったのです。ところが実際には生徒が使用するタブレット端末が不足し、学習が滞るかもしれない事態が生じたのです。

同窓会としては同窓生の皆様からお預かりしている大切な寄付金を支援金として使わせていただきました。同窓会以外に、この生徒たちの未来にとって必要な支援を担えるところがないのです。

まだまだ例を挙げることができます。

部活動や探究活動、学習活動で、生徒が頑張れば頑張るほど、遠征が多くなる、高価な用具が必要となる、活動場所の使用料が必要となるなどそれなりの負担がかかります。同窓会としてはできる限りこのような事態に対して支援していきたいのです。

このような理由で、私は同窓生の皆様に寄付をお願いしたいのです。

現役生徒の様々な分野での活躍は目を見張るものがあります。たとえば、日頃の探究活動が高く評価され、全国でたった10校のWWL（文部科学省によるワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業）の拠点校に選ばれ指定されています。また、令和2年3月の現役卒業生数に対する国公立大学合格者の割合は東京都で3位、都立高校で１位になりました。令和元年夏には太鼓部が全国優勝を遂げました。これらの実績が象徴するように今まさに南多摩は多摩地区の南多摩から東京都の南多摩へ、そして全国区の学校へと着々と歩み続けています。南多摩から未来の日本、世界を担う若者が一人、また一人と生まれているのです。

同窓生の皆様、どうかこの頑張る現役生に投資してください。

投資つまり寄付してメリットはあるのか？そんな声が聞こえそうです。お金や品物としての返礼はありません。まったくの寄付です。後輩たちの成長が唯一の返礼品です。

寄付の仕方はどうすればいいのか？「**学校支援協力金**」の振込用紙をご利用ください。当然のことながら金額の多寡は問われません。

あなたの寄付が南多摩の未来を創ります。そして南多摩の未来が世界を創っていくのです。この宝物を私たちの手で守り、育てて行きましょう。

御挨拶

東京都立南多摩中等教育学校 校長　永森 比人美

日頃から本校の教育活動について御理解・御協力をいただき心から御礼申し上げます。

さて、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、１年間にわたり８時 15 分からの学校開始時刻を９時 30 分にずらす時差登校を継続し、三大行事は一切行えず、部活動も一部分しか実施できないという今までに経験したことのない学校運営を行わざるをえませんでした。また、校長として学校の存在価値や行事・部活動の意義等について改めて考えさせられる年度となりました。

こうしたコロナ禍にあって、本校は心・知・体の調和から生まれる人間力を育み、グローバルな人材を育てることを学校目標に掲げ、探究学習を柱とする多様な教育活動を展開しております。また、昨年度から文部科学省から指定を受けた WWL コンソーシアム構築支援事業の拠点校のミッションを果たすべく、対面やオンラインを組み合わせて工夫を凝らした教育活動を内外に発信してまいりました。その一端をこの後に続く小泉副校長がまとめた「コロナ禍でも力強く突き進む南多摩中等教育学校」で御紹介します。制約の多い中での教育活動をここまで多岐に展開することができましたのも関係機関の御協力は言うまでもなく、生徒の知的好奇心や本校教員の組織力の賜物と感じております。新型コロナウイルス感染症が終息し、本校の教育活動を御覧いただける時間ができることを切に願っております。あかね会の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

コロナ禍でも力強く突き進む南多摩中等教育学校

南多摩中等教育学校 副校長　小泉 博紀

あかね会の皆さま、日頃より本校の教育活動の発展に向けて、御理解及び御協力賜り誠にありがとうございます。

令和2年度において、本校は、新型コロナウイルス感染症対策により新たな取組に挑戦した年となりました。特筆すべき教育活動の一部を抜粋して紹介します。

１ コロナ対応

「3N（Nantama New Normal）」の策定からはじまり、サーモグラフィとアクリル板の導入など感染症対策を生徒、保護者の皆さまとともに進めてまいりました。6月15日（月）に、小池百合子東京都知事が来校され、生徒の登校の様子を視察するとともに、特例教科「データ分析」や自宅学習中の4年生を対象とした「進路ガイダンス」（双方向ライブ配信授業）も参観されました。

２ 令和2年度大学入試結果

令和２年度大学入試において、76名の生徒が現役で国公立大学に合格したこともあり、朝日新聞EduAというサイトに掲載された「全国公立大現役進学率ランキング」（令和2年9月1日付）において、本校は全国で164位（都内の学校では3位、都立学校では1位）にランクしました。

３ WWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業

昨年度からWWL（ワールドワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校10校の一つに指定され、今年度もイノベーティブなグローバル人材を育成するために、様々な取組を行ってきました。

(1) 第1回Crossthe Border講演会「探究×ビジネス」

株式会社日本政策金融公庫の立本純之氏からビジネスの観点から社会を見つめ、課題解決を図るためにどのような視点が必要なのか、個人ワークやグループワークを織り交ぜながらの講演でした。ビジネスのプランを考えるワークショップでは、多くの生徒からアイデアが出されました。

(2) 第2回Crossthe Border講演会「地域からの学び」

「地域からの学び」をテーマにした講演を実施しました。八王子市未来デザイン室の無藤一貴氏から2040年には親の世代になっている高校生が地域社会の現状と未来について考える意義について考える機会となった

講演でした。また八王子市役所や市内の都立高校（八王子東、八王子北、翔陽）と連携して、八王子の未来を考える「八王子未来プロジェクト」を発足しました。

(3) 第3回Crossthe Border講演会「グローバルな学び」

「グローバルな学び」をテーマにした講演を実施しました。一般社団法人GiFTの鈴木大樹氏から、思い通りにいかないときはときに一度立ち止まってじっくり考えること、読書三昧する大切さ、海外の多様性から広い視野をもつ大切さ、海外留学やバックパッカーでの旅などの経験談等についてお話しいただきました。

(4)「第3回全国高校生SRサミット“FOCUS”」に参加

オンラインで開催された「第3回全国高校生SR（Social Responsibility）サミット“FOCUS”（Forumon Creating Unified Societies）」に本校の生徒が参加しました。“FOCUS”とは、様々な高校の生徒や国際学生（日本に留学中の大学生）とSDGsに関わる各校のプロジェクトの課題について協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに学び高め合うことを目的として、立命館宇治中学校・高等学校が企画したイベントです。本校は、「校内でできるプラスチック削減」、「Econsumer（Eco+consumer）」を目標に活動している2チームが参加しました。「学校のプロジェクト紹介動画の作成」、「4日に一度のオンライン講演会への参加」、「他校の学生との事前ミーティング」や、それぞれのプロジェクトをさらにブラッシュアップして発表しました。

(5) モンゴル日馬富士高校とのオンライン交流会

本校のGI研の生徒4名、モンゴル側から5名の生徒が参加して、日本の文化、日本の高校生の生活、モンゴルの特徴、モンゴルの高校、日本・モンゴル双方で訪問したい場所、将来の学びや留学等について意見交換をしました。モンゴルの高校生は、来日した際、沖縄、北海道、秋葉原、スカイツリーなどに行きたいそうです。日馬富士高校では全員が日本語を学んでいたため、今回の交流は日本語で行いました。

(6) WWLグローバル講座「ベトナムの風」開催

講師の方は、ハノイ国家大学で日本語を学び、日本への交換留学、ベトナムでの就職を経て、東京外国語大学大学院博士後期課程を修了した方で、現在東京外国語大学オープンアカデミーでベトナム語講座も担当しています。講演では、ベトナムの基本情報、ベトナム人から見た日本の不思議、日本語の不思議、外国人が日本や世界で学ぶ意義などとともに、空気のような母語を大切にすること、様々なことを決めつけず理解しようとする姿勢の大切さについてのお話をいただきました。

(7) WWLSTEAM教育講座第1回「ドローン講座」開催

デジタルハリウッドロボティクスアカデミードローン専攻からの3名の講師、アシスタントの方の御協力により充実した講義と実習となりました。ドローンの活用（空撮・建築点検・農業・物流・エンターテインメント等）について講義の後、2種類のドローンの操縦にチャレンジしました。体育館内に作られたコースを通過したり、各所に置かれたVRボードでゲームをしました。楽しみながらドローンの基本的な操縦技術を学ぶことができました。最後のまとめでは、インターネットがあっという間に当たり前になったように、近い未来においてドローンが当たり前の社会になり、その活用を担うのは、現在の中高生だというお話をいただきました。

４ 部活動

コロナ禍でも多数の部活動が活躍しています。

太鼓部においては、第44回全国高等学校総合文化祭「2020こうち総文」郷土芸能部門にリモートで参加しました。開会式では、クイズへの参加やよさこいを全員で踊るなど、全国の人と一体となって充実した時間を過ごすことができました。

薙刀部においては、東京武道館にて第31回東京都高等学校なぎなた秋季大会兼第16回全国高等学校なぎなた選抜大会東京都予選会が開催されました。本大会の団体試合は補欠選手なしの三人のみのエントリー、フェイスシールドにマスクを着用しての試合でした。結果は、昨年に引き続き優勝し、本年3月19日（金）～21日（日）に兵庫県伊丹市で開催される全国選抜大会の出場権を得ることが出来ました。個人試合においては優勝と2位、演技では3位入賞しました。

後期女子テニス部においては、都立学校のうち96校が参加した第58回都立対抗テニス大会で準々決勝まで進出し、ベスト8（第5位）となりました。また都立中高一貫校11校で開催した大会では、A・Bの2チームともに1位リーグで優勝しました。さらに第26回東京都立高等学校テニス選手権大会において、個人戦でベスト8（第5位）となり入賞しました。

南多摩フィルハーモニー部においては、第9回日本学校合奏コンクール2020全国大会グランドコンテスト全国大会で銅賞を受賞しました。

５ その他

(1) 高校生書評合戦東京都大会で優勝

今年度の「高校生書評合戦（ビブリオバトル）」東京都大会では、都内の高校から選ばれた生徒87名が参加し、

おすすめの本についてプレゼンテーションを行いました。本校の代表生徒は、筒井康隆著『残像に口紅を』を紹介し、見事にグランドチャンプ本発表者となりました。

(2) 受信環境クリーン図案コンクールで入賞

3年の美術の授業で作成したポスター作成を「受信環境クリーン図案コンクール」に出品し、そのうち1名が「関東受信環境クリーン協議会奨励賞」を受賞しました。東京都の中学生の作品の中で、本校生徒が唯一の受賞です。授賞式の模様はMXテレビの「news TOKYO FLAG」で放映されました。

(3)「税についての作文」表彰式

全国納税貯蓄組合連合会と国税庁が共催で募集をした“中学生の「税についての作文」”に応募し、5名が入賞（東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞2名、東京納税貯蓄組合総連合会会長賞1名、東京都八王子都税事務所長賞1名、八王子市長賞1名）しました。

本校では、これまでの取組をさらに発展させるために、教職員が一丸となって教育活動を展開してまいります。あかね会の皆様におかれましては、今後も本校に対する御支援及び御協力をいただきたく存じます。

教職員一同、今後もあかね会の益々の御発展をお祈りしております。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路指導部主任　徳武 英人

今年卒業の６期生は昨年3月以降の新型コロナ感染症による臨時休校、分散・時差登校、３大行事や部活動の大会中止という困難な状況での受験となりました。また、大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストが始まるという不安も大きい状況でした。大学入学共通テストは全員、第一日程を受験することができました。その後の個別入試で、６期生は国公立大学の中期（3月8日）後期日程（3月12日）まで粘って受験した生徒が29名と多く、最期の最後までがんばっていました。難関大学や国公立医学部にも例年通り合格を勝ち取りました。また京都府立大学をはじめ、地方の公立大学にも自己の志望を叶えるためにチャレンジしていました。難関１０大学は北海道４名、東北2名、一橋3名、東京工業1名、京都１名、九州1名となりました。国公立大学等には合計56名が合格し、卒業生に占める割合は40.3%となり、これまでの先輩たち同様、良好な結果を残しました。

国公立大学では総合選抜型・学校推薦型入試で合格した生徒もいました。総合選抜型では東北大学工学部、学校推薦型では山形大学医学部医学科、奈良女子大学生活環境学部に合格しました。

私立大学では例年通り多くの生徒が早慶上智、東京理科、GMARCH等の難関大学に合格しました。

６期生合格実績

１ 国公立大学(現役のみ)

国公立大学	2021 現役
北海道大学	4
東北大学	2
山形大学※	1
福島大学	1
筑波大学	1
群馬大学	1
千葉大学	3
お茶の水女子大学	1
東京外国語大学	3
東京学芸大学	2
東京藝術大学	1

国公立大学	2021 現役
東京工業大学	1
東京農工大学	4
電気通信大学	2
一橋大学	3
横浜国立大学	3
山梨大学	1
信州大学	1
京都大学	1
九州大学	1
奈良女子大学	1
東京都立大学	4

国公立大学	2021 現役
横浜市立大学	2
都留文科大学	2
静岡県立大学	1
大阪府立大学	1
大阪市立大学	1
京都府立大学	2
北九州市立大学	1
防衛医科大学校	2
国立看護大学校	2
計	56

※ 医学部医学科

国公立現役合格率　40.3%

２ 私立大学(現役のみ)

私立大学	現役
早稲田大学	15
慶應義塾大学	10
上智大学	4
東京理科大学	26
明治大学	46
青山学院大学	23
立教大学	21
中央大学	35
法政大学	31
学習院大学	4
成城大学	11
成蹊大学	17

私立大学	現役
國學院大学	5
明治学院大学	10
武蔵大学	1
芝浦工業大学	10
日本大学	25
東洋大学	13
駒澤大学	13
専修大学	8
津田塾大学	3
東京女子大学	1
日本女子大学	7

３ 短大・海外大学・専門学校

海外、短大、専門等	6期生
目白大学短期大学部	2
昭和大学医学部付属看護専門学校	1

（2021 年 3 月 25 日時点）

注）６期生（現役のみ　卒業生 139 名）
合格者数：複数大学の合格者は重複計上

新入会員紹介

宝石になった日々

令和３年卒(中等６期生) 石井 悠大

入学から６年の時を経て、南多摩という存在は私にとって「青春の宝箱」になりました。学業はもちろん部活、南魂祭をはじめとする数々の行事の思い出とそこから得られた学びは生涯私の中で生き続けるものです。

私は太鼓部に６年間所属しました。そこでなにより嬉しかったのは、太鼓部での定期演奏会でみる身近な人の笑顔と、「かっこよかったよ」などの声です。いちょうホールでの定期演奏会は、多くの方々に日ごろの成果を発表できる場として、大きな喜びであり何よりの楽しみでした。そういった舞台に立てるのも、顧問の今川先生をはじめとする先生方、友人、家族、そしてあかね会をはじめとするOBOGの方々が日ごろからご指導・ご支援いただけているからこその賜物であり、感謝の念が尽きません。だからこそ、コロナのせいで最後の定期演奏会の機会が失われてしまったことは本当に残念でした。後輩には、私たちが返せなかった分まで、お世話になった皆様に対しての感謝を、最高の演奏という形で返してほしいです。

また、生徒会にも４年間所属しました。私は、主に部活動や委員会が活動する上での規約の改正に携わらせていただきましたが、規模の小さい部活への締め付けが強くなりすぎないようにすることと、部活の数が増えすぎないようにすることを両立する規約を完成させるのがとても難しかったのを覚えています。中等教育学校としての南多摩はまだ歴史が浅く、制度や規約などに改善を要する点が多く存在します。後輩には今後の南多摩の在り方を考えるとともに、積み上げられてきた伝統も大事にしながら、中等教育学校をより良い学校にしていってほしいです。

私は所属していた２つの組織での日々が当たり前だと思い込んでいましたが、コロナウイルスによって、今まで過ごした日々がいかに貴重なものだったかを知ることができました。一日一日を無駄にすることなく、南多摩の先に続く自分の道を、一歩ずつ着実に歩んでいこうと思います。

大切な財産

令和３年卒(中等６期生) 鈴木 柚香

小学校6年生で南多摩を受験し、この前入学したかと思えば、もう中高６年間が終わりを迎えようとしています。思い返すと、この６年間は私にとって、非常に刺激的な日々でした。

入学してから数週間、私にとって最大の転機となる選択をすることとなりました。それは薙刀部に入部したことです。入った当初は部員が６学年揃っていないような小さな部でしたが、少ない部員で助け合い和気あいあいとした雰囲気が大好きで、前期生の頃の部活を懐古すると素敵な思い出が多く、もうあの日々には戻れないと思うと少々の虚しささえ感じます。

後期生になってからは、外部の練習に参加させてもらえる機会が増え、実力がついていく確かな実感がありました。一方で稽古が嫌になって薙刀に本気で打ち込めず、顧問の徳地先生に「そんな態度ならもう教えたくない」と言われたこともありました。今では、そこでやめていたら後悔ばかりだったと思うし、当時私たちを見捨てずに指導してくださった徳地先生には感謝してもしきれません。多少の紆余曲折は経ましたが、終わり良ければすべて良し、全て高３の大会で晴らすつもりでした。関東大会で優勝して、インターハイに団体で出場して、笑顔で、引退するビジョンがありました。しかし残念ながらそのどれも叶えることはできず、挑戦することすらできませんでした。今でも悔しい思いはありますが、それでも、薙刀部での活動は何にも代えられない、私の大切な財産となりました。揃いの胴をはじめとする、温かいご支援・ご声援をくださったあかね会の皆様に心より感謝申し上げます。

部活はもちろんのこと、勉強や行事においても南多摩での生活が充実したものになったのは、担任団をはじめとする沢山の先生方、そして６期生のみんながいたからです。特に高３の受験期では、新型コロナウイルスによって部活、行事、遊びなどのあらゆる青春を奪われながらも、最後には覚悟を決めて受験という大きな壁に立ち向かう仲間の姿が印象的でした。一人では、気持ちを切り替えることができなかったかもしれません。やり場のない無念さを胸にしまって、受験に向き合えたのは、紛れもなく仲間がいたからだと思います。

私たちは中高６年間を過ごした南多摩を旅立ち、新しい道に向かって歩き出します。南多摩での経験は、私たちの背中を押し続けてくれるものだと確信しています。

インタビュー　「塩野 峻平さん」「松本 陽さん」

２期生のはばたき

平成 29 年度卒　山口 晏未

南多摩を平成29年に卒業し大学の卒業を控えた今、卒業後の活動として自分を表現する世界に進むことにした塩野峻平さんと松本陽さん。それぞれ在学中からその道へ向けて学業プラスアルファ、様々なことに力を注いでいました。塩野さんは監督した作品「レイディオ」が賞を受賞。松本さんは事務所に所属して俳優業など新たなことにチャレンジしています。そんなお二人に同級生を代表してインタビューさせていただきました。卒業した今でも私自身仲良くしていますが、一緒の教室にいた頃どういう思いでいたのか、今どういう思いでそれぞれ頑張っているのか新しく知ることができて、これからのことを想いとてもワクワクしています。

（取材・文 / 山口晏未）

――まず南多摩生の頃の話からお聞きします。どんな中高生だった？

塩野：まず俺は南多摩生だった頃は映画を撮ろうとは思っていなかったんだよね

松本：そうそう。だから大学に入って監督をやっていると知ってびっくりした。

塩野：でもね中高生の頃からものをつくることが好きだったかなと思う。趣味の範疇だけど、自分で本を書いたり絵をかいたりしていたし。昔からクリエイティブなことが好きでそういうことを将来していきたいと思っていたんだよね。最初はね脚本家になりたいなと思ってもいた。

松本：そうだよね。峻平はどちらかというとテレビ関係の仕事とかに興味があるのだと思ってたよ。

塩野：南多摩生の頃はね漫画がとても好きだったから、漫画の編集者に憧れていたんだよ。その後次第に脚本家になりたいなと思うようになって。大学生になってからはドラマなど映像が撮れるサークルということで放送研究会に所属したんだよね。

脚本は自分の考えている絵から話を書いていたから、やりたいのは監督ではないかと思い始めそれがハマったという感じかな。今回撮った「レイディオ」も原案だけ考えて脚本はほかのメンバーにお願いし、自分は監督をしたんだよ。南多摩生の頃は監督になるとは思っていなかった。でも今思うと高校での野球部の経験は結局大きいかなと思う。監督と野球部のキャプテンってやっていること被っている気がするんだよね。

松本：組織の中での役割というか動き方のこと？

塩野：そうそう。領域は違うけれど通ずるものがあると思う。部活は頑張っていたことの大きな一つ。高校３年間は部活しかしてないからなあ。陽も陸上部頑張っていたよね。ピアノの活動と両輪でやっていた印象があるな。

松本：陸上部では自分を律する方法を学べたと思うよ。部活やピアノだけではなく体育祭実行委員とか文化祭有志イベントとかもやって、とにかく行事から何まで色々なことやっていた気がする。成功と失敗、挫折や反省という体験をたくさんできたというのは財産だと思う。大学生になると、例えば自分は『東京六大学ピアノ連盟』という学生団体の代表になったけれど会社などが絡むとお金が発生して選択肢の幅は広くてもリスクや責任が生じるからチャレンジできることが減ったんだよ。中高生であれば財源は意識することではないしやりたいようにできるからそういった経験値を積めたのはよかった。大学に入ってからかなり活かされていると思う。

陸上部のときの松本さん

塩野：陽は高校生の頃とか全然寝ていなかったよね。

松本：寝ていなかったね～。３時間とかだった。でもこの年になるとここで頑張りたいという時があるので、踏ん張りがかなり違ってくるなと思うよ。

塩野：日によるけどね（笑）それこそ自分も撮影期間は学校に寝泊まりして撮っていたなあ。

山口：うわあ。大変だね。

塩野：学生同士での撮影の何が大変かというと授業があることなんだよね。みんなの空きコマ（授業のない空いている時間）で撮影しなければいけないからキツかったなあ。「レイディオ」以外にもサークルでの作品を作っていたからあの期間だけで映像作品を５、６本撮ってたね。死ぬかと思った（笑）

松本：よくできたね（笑）でもやっぱりそこで踏ん張れるかどうかだと思うよね。

――南多摩生のときは学業もかなりハードだったなと私は思います。南多摩の環境は自分にとってどうだった？

松本：良い意味でだけど変な人が多かったな～。良く言うと長いものに巻かれない人たちだったかな。自分のやりたいことをしっかり定めてこだわりをもっているイメージがあるよ。

塩野：うん。変わった人が多かったよね（笑）

松本：今思うと周りと違うことしていても肩身は狭くなかったな。いいじゃん、もっとやりなよって雰囲気だったよね。友達がすごくよかったね。価値観が近いところも良かったなあ。

――南多摩というと大きな三つの行事が毎年ありますよね。それについて聞かせてほしいです。まず合唱祭の話。中学入って合唱祭があるって知ってどうだった？

松本：まずオリンパスホールで合唱できるの？って喜びが大きかったかなあ。とても魅力的だった。それで気合が入って、初めての合唱祭の時に難しい曲をたくさんクラスに持ち込んでみたんだけど１つも選ばれなかったんだよ（笑）最初は空回りしていた気がするなあ。周りとの温度差を感じていたし。そういう自分の熱い思いをクラスメイトと共有できるようになってきたのが３年Ｂ組（中学３年生）のときだったんだよね。それから全部優勝できたんだよ。もちろんクラスの皆が頑張ってくれた結果ではあるんだけれど物凄く嬉しかったなあ。合唱祭は音楽的なことよりも人との協力の仕方やまとめ方とかについての気づきの方が大きかったと思う。

塩野：YouTubeも同じじゃない？ただ演奏するだけでは視聴者はつかないからそこをどう工夫していくかというところだよね。合唱祭にどう巻き込んでいくか、みたいな時の考え方と共通するところが少しあるんじゃない。

松本：わかるわかる。自分の主観で物事を考えてはいけないということが良く分かったんだよね。

――塩野はまとめる立場というより、参加する側だったと思うけれど合唱祭はどんな印象だった？

塩野：歌うの嫌いじゃないから参加はしてたけれど忙しかったからなあ。

松本：野球部で忙しかったよね。朝練とか出られてた？

塩野：野球してたよ（笑）

松本：やっぱりそうだったか。

塩野：行事が嫌いでやらなかったわけではなくて他にやることがあったから、自分のできる範囲では頑張ったという感じかな。

山口：音楽的に熱がある人とそうじゃない人との仲介役だった人もいるし。行事の参加の仕方というかそれぞれの熱量の差みたいなものは難しいよね。

松本：俺も指揮者やりながら、自分自身も運動部で朝練を仕切っているときがあったから部活頑張っている人の気持ちもよく分かるしそこはアンビバレントになるというか。

塩野：そう考えると自分はアクティブじゃなかったかもなあ。前期（中等部）の時の方が文化祭とか頑張っていたしアクティブだったな。

松本：合唱祭の時のクラス紹介とかやっていたよね。あれもかなりクラスにかなり貢献できていたとおもうよ。２期生は、クラス紹介とか人に「見せるもの」に結構気合入れていたんじゃないかな。後輩に良い影響与えられていたと思うけどな。

塩野：そういわれると微々たるところではアクティブだったかも。

野球部の主将だった塩野さん（中央）

――それでは次、文化祭の思い出を教えて。

松本：高３の文化祭が圧倒的にめちゃくちゃ力入れたんだよね。高１のときの文化祭は新人戦と被って準備はおろか当日も出られていないんだよ。高２のときは当日は行けたけれど準備は参加できなくて気づいたら完成していた感じだった。中３ではそこそこできたけれど、高３でやっと力を入れられたわけよ。

塩野：俺ら中３の時、漫才やったよね。文化祭で。

松本：お笑い芸人のYouTube一緒に見てそれをたたき台にして、担当の先生に見せて…

塩野：待って全然覚えてない。

松本：なんで（笑）峻平が誘ってくれたんだよ（笑）

山口：そしてそれが高３の時の文化祭中庭イベントで行った大喜利につながっていると。

松本：大喜利やったねえ～（笑）

塩野：あのお揃いで着たTシャツ今でも寝間着で着てるわ。文化祭はやる気あったよ。

中３の頃のお化け屋敷相当気合入れたし。５年、６年のときはあまり参加できなかったけど。

それこそ５年の頃のクラスの出し物で映画撮ってたけど参加できなかったし、まさか今監督に自分がなるとは思わなかったんだよなあ。

山口：塩野のクラスは部活動頑張っている人が多かったクラスだからそういう人たちの負担が少ない出し物になったんだよね。
塩野：文化祭好きだったよ。考えたものを形にするのが好きだった。でもそれがこうやって映画につながるとは思ってもなかった。
山口：そういう考えているものを表現したりアウトプットしたりする片鱗はあったよね。
松本：そういえば俺は文化祭で演奏もしたなあ。
山口：あのYouTubeに上げているチャルダッシュの演奏動画何度も見たよ。
塩野：俺は野球に学生生活捧げたつもりだけど、あの時一つのことにあれだけ打ち込めてよかったよなって今では思う。行事を犠牲にしたつもりはないけれど野球部での経験が今やっていることにつながっていると思うし、やり切れてよかったなと思う。

――それでは最後に体育祭について。どういう参加の仕方をしていた？
塩野：俺は大縄回してたわ。
松本：確かにその印象あるよね。俺回すコツ教えてもらった記憶あるよ。
山口：松本は実行委員を頑張っていたよね。
松本：２期生はあらゆる場面でそういうことはある代だと思うけれど、体育祭は南多摩高校が受け継いできたレガシーと南多摩中等部が作りだした新しきものに挟まれて難しかった。保守と革新というか。先生側の意向と自分たちのやりたいことと。
山口：行事もそうだし生活そのものが新しくできた学校ゆえに、そういうところをどのくらい引き継いでいくのかというのが難しいんだよね。
松本：そのうえ２期生なりの大変さもあって。一期生はとにかく何でも新しいものにチャレンジできていた印象があるけれど、そういうのを理解しつつ踏まえつつ色々な先生の顔色も窺いながら仕事をしていかなければならなかった。
山口：２期生だからこその難しさはあるよね
松本：そうなんだよね。難しいポジションだったそれがほんとにしんどかったイメージがあるかも（笑）

――続いては、現在のことについて。監督業に関わることで塩野は最近積極的に行っていることは何かある？
塩野：今は撮った映画「レイディオ」の映画祭周りと自分のPR、新しい脚本を書く作業などを行っているところかな。
松本：監督ってフリーでやってる人が多いの？
塩野：多いんじゃないかと思うよ。
松本：じゃあ仕事も引っ張ってこないといけないんだ。
塩野：そういうことになるね。事務所に所属する場合もあるけどね。
松本：有名になる方法としてはコンテストで賞をとっていくことが必要なの？
塩野：そうだね。今の自分の道だとそれしかないかなあ。自分は今まだ業界の人と比べると勉強が足りていないかな。一般大に在籍してきたからそこは自分で学んでいく必要があると思う。

――塩野が今回制作した「レイディオ」は大学生塩野峻平として等身大の映画だったと思うけれど、監督としては今後どういうものを撮っていきたいの？
塩野：個人的に好きなジャンルが人間の生活を切り取るものなので、ファンタジーではなくて等身大を映していく方が好きかなと思っていて。やっぱり今撮れるのは自分が経験してきたことだけだから自分と同年齢であるとかリアルなところを撮っていきたい。

塩野さん

――最近なにか注目している映画や映像作品はある？
塩野：今は、特別こういう作品に注目しているというよりも、今までとは自分の映画の見方が変わってきたなって思っていて。少し映像をかじって慣れてきたなってくらいのときはこの演出はどうだとか、技術の面を注目して映画を見ていたけれど、ほかの人の映画を見ていくうちに技術よりも伝えたいことが大事なのだなと思うようになった。主題は何なのか。そういう目で見るようになってきたんだよね。

――何か今、目標にしていることはある？
塩野：今はとりあえず次の作品をとることかな。学生であればサークルだったので無料でもやってくれる人はいたけれど、そうではなくなるからスタッフも集めなければならないし自分で資金調達をする必要があるんだよね。
山口：賞を獲れてもここからも大きな関門があるんだね。
塩野：そうね。だから次の作品をとれることが目標です。あとは映画だけじゃなくて他のジャンルの映像も撮っていけたらいいなと思ってる。
松本：それはぜひ撮ってほしいね。

――最後に監督業の魅力について教えてください．

塩野：監督って人に指示をするけれど実際に手を動かすわけじゃないんだよね。その中でほかのスタッフにうまく自分の意思が伝わって良いと思うものが取れた時はとても嬉しいね。

――ありがとうございました。それでは松本くん。まず今一番積極的に行っていることについて教えてほしいです。

松本：今は演技の下積みと知名度のアップですね。

塩野：オーディションとか？

松本：オーディションはね、大学での論文を出し終えてピアノの活動が落ち着いてからかなと思っているよ。今はそのための準備をしていて、演技のレッスンをしているところ。今までのピアノでの経験上、10年15年という下積みがあってやっとコンクールで勝負ができる、人前で芸事ができるというイメージが自分の中に強くあるから、ある意味それをぶち壊すというか謙虚になりすぎないようにしていきたいと思っているんだよね。

塩野：毎日オーディションとかになっていくよねたぶん。

松本：そうだよね。オーディション受けながらレッスンも続けてスキルアップしていくみたいだよ。でも今は知名度がないと引っ張り上げてもらえないのでSNSもうまく使っていく必要があるなあと思っているところ。

松本さん

――どのような表舞台に立っていきたいなどの理想は今のところある？

松本：なんでもやっていきたいなと思っている。自分の器用だと言われる部分を活かして、こういう俳優になりたいというのは細かくは定めずに色々な仕事をしたい。憧れている方はいるけれど今の段階では意識せずにいようと思っているかな。自分の今までの人生を振り返ると、喜怒哀楽、たくさんの出来事があったので、良くも悪くも豊富な人生経験をお芝居に活かしていきたい。台本を貰った時にピンとくるかどうか、自分事としてとらえられるかどうかという面については演技や発声というよりも経験があるかないかで。大学も四年間しっかり通って素人世界に長くいたので、デビューが比較的遅かったけれどそこを強みにしていけたらいいな。

――具体的にこういうタレント活動をしていきたいというのはある？

松本：タレントという縛りで活動していきたいというわけではないけれど、バラエティにも積極的に出たい。クイズ番組とか出てみたい。なんでもやる俳優になれたら良いなと思っているよ。今まではこだわりが強くて、それで自分の可能性をつぶしてきた気もするのでそういう意味でもあまりこだわりを持たないでやっていこうというこだわりを持っていきたいです。

山口：確かに中高時代を知っている身としてはストイックなイメージがかなり強いから意外だよ。でもそれが今の松本に適しているのかもしれないね。

松本：そうだね。需要をしっかり見極めて活動していこうと思う。

――松本は幼少期にピアノを始めているよね。そこからずっと続けてきて、高校生頃から積極的に外での演奏活動を行っていたという印象があるけれど、ピアノを演奏することと仕事というものを関連付けて考えるようになったのはいつ頃？

松本：中学３年生のときに八王子アーティストバンクという事務所を知って所属してから、高校１年生の5月に初めていちょうホールで60分の演奏を経験した頃かなあ。それまではずっとコンクールに出場していたから、ピアニストとしてそこで高い順位をとることだけが目標だったんだよね。お客さんを呼んで演奏してお金を貰うことがピアニストの本職であるということを認識し始めてからそこに集中するようになった。あとは中学２年生の頃に自分のピアノの先生が変わったことも関係していると思うよ。視野が広がったのがその頃で。ピアニストという仕事の考え方を突き詰めて、自分に合っているであろう道を模索した結果、現在に至っているという感じ。

――今、松本はYouTubeでのピアノの演奏活動も積極的に行っているように思うけれどYouTubeは今後自分にとってどのような場にしていきたい？

松本：どんどん動画をアップしていって自分のことをより知ってもらえるところにしたいと思っているよ。今までは自分のやりたい企画や弾きたいものを載せていたけれど、これからは自己プロデュースの場になっていくかな。YouTuberさんを目指したいわけではないのであくまで自分の演奏を知ってもらえる場として、他の活動との折り合いをつけてやっていけたらいいなあ。

インタビューを終えて

塩野：やっぱり四年も経てばみんな変わるよね。

山口：私は自分が何も変わってないと思うんだよね。

松本：そんなことないと思うけど。

塩野：まあみんなやらなきゃいけないことが増えていくからね。

松本：でも峻平も生き方自体はそんな変わってないと思うよ。自分のベクトルを向けていく方向というかさ。やりたいこと思いついたらすぐに動くし。中３のとき峻平と俺で漫才やったよね文化祭で。

塩野：やったね～俺は今ミュージックビデオやっぱり作りたいなあ。１、２年でできたらいいなあ。

山口：どうやって新しい監督って発掘されるんだろ。

塩野：いいもの作っているだけでは仕事はこないよ。自分でいかないと。足で稼ぐ仕事だと思う。もっとアーティスティックな感じだと思っていたけれど全然そうじゃない。考えて動かないと仕事にはならない。

山口：根性が必要だね。

塩野：あと俺は撮りたいものを撮るためにやりたくないことをやる。

松本：やりたいことのためにやりたくないことをどれだけできるか、ってことね

山口：なるほど

松本：そういうことを学ばないと生きていけないと思うんだよね。

山口：ふーん。モノづくりっていいね。私が見ている作品に自分の友達が出ていたり名前が出ていたりしたらすごく面白いなあと思うわ。

塩野：陽が月９ドラマとか出ていたら絶対バイアスかかるわ（笑）

松本：いやあなんかキラキラな役とか見せられないわ（笑）

山口：今後がとっても楽しみになってきたよ。今日はありがとうございました。

塩野：ありがとうございました。

松本：ありがとうございました。

プロフィール

塩野峻平：2017年中央大学入学と同時に同大放送研究会に所属。映像制作を始める。監督作品「レイディオ」が門真国際映画祭2020優秀作品賞・審査員特別賞、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2020ノミネート、映文連アワード2020優秀作品賞（準グランプリ）を受賞。クリエイターチーム「RARERU」代表。
（公式サイト　https://rareru.net/creator-shiono/）

松本 陽：東京国際ピアノコンクール高校生部門代５位。セシリア国際音楽コンクール大学生の部１第２位。テレ朝「音楽チャンプ」への出演やYouTubeでの動画配信など、その演奏活動の場は多岐に渡る。東京六大学ピアノ連盟第24代理事長。ASOBINEXT所属。
（公式サイト　https://yoyo-piano.com/）

多摩川の清流を眼前に臨む美術館で…

昭和 44 年卒　井上 務

「清流の歌姫」

日本一美しい声で鳴くというカジカガエルは「清流の歌姫」と呼ばれます。鹿の鳴き声に似ているところから河鹿蛙と漢字表記されます。その河鹿の名を冠した「河鹿園」は JR 御嶽駅から歩いて僅か１分、カジカガエルの棲む多摩川の清流を眼前にした素晴らしい場所にあります。対岸には「川合玉堂美術館」。「河鹿園」の看板（写真①）にはその川合玉堂が詠んだ「駅出るや河鹿聞こゆる橋見ゆる」との文字を見つけることができます。

写真①　「河鹿園」の看板

「料亭旅館から美術館に」

料亭旅館であったその建物は2020年に国登録有形文化財となり現在は「旅館建物　室礼(しつらい)美術館」へと変身。その「美術館」オーナーは昭和41年卒の宇佐美昭さんです。美術史を学んだ我が息子に勧められて「アートフォーラムin河鹿園」などを観賞のためにその美術館を訪れていたある日「河鹿園のオーナーさんは南多摩の卒業生らしいヨ」との情報を得ることになりました。

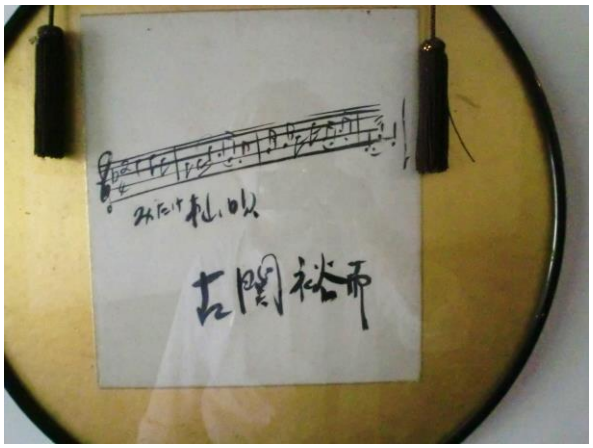
「チャンスは突然に」

卒業生名簿を確認すると勤務先に「河鹿園」との文字。以来、先輩とのツーショット写真を撮るチャンスを待っておりました。そして2020年８月某日、アートフォーラムの鑑賞後に先輩の姿を受け付け近くで発見、急いでカメラを用意し、お仕事中の河鹿園スタッフの方に「シャッターを押してください」と無理をお願い。先輩は快くカメラに収まってくださいました（写真②）。そして「あかね会広報に一文を！」とお願い。「同窓会にはご無沙汰してしまっているので…」と固辞される先輩でしたが「素晴らしい美術館としてスタートした河鹿園をもっと同窓生に知って頂きたいので…」と懇願、ご納得いただきました。

写真②　左：宇佐美さん　右：井上

「さりげなく古関裕而さんの色紙が」

館内では NHK の連続テレビ小説「エール」のモデル、古関裕而氏の色紙が通路壁面にさりげなく展示されていることを発見。作詞・川合玉堂、作曲・古関裕而という御岳ゆかりの曲がご縁で河鹿園に投宿されたようです（写真③）。



写真③　小関裕而の色紙

他にも著名人の色紙がずらり。先輩にはそれらの色紙が認められた秘話や旅館から美術館への経緯などを綴って頂きたいとお願い致しました。

「歌姫は〇〇」

さて、冒頭で述べましたがカジカガエルは「清流の歌姫」と称されますが鳴くのはオスだけ。また、昔から短歌の世界で蛙というと河鹿蛙を指したそうで河鹿蛙はとても身近な存在でした。しかし、温暖化の影響でしょう、カジカガエルは最近その数を減らしているそうです。

一方、ヒトもコロナ禍で右往左往。カエルもヒトも自然の中で生かされています。自然豊かな御嶽駅至近の場所で同窓生とフツーにお会いできる平穏な令和３年を願いつつ筆を措きます。

最終学歴

昭和 41 年卒　宇佐美　昭

自分では武蔵高校と決めていた。制服がないと聞いていたからである。当時VANだJUNだとチャラチャラしていた。ところがある日、母からどうしても一級上の姉が通っている南多摩高校へ行ってくれと言われた。理由を聞くと、在校生に子供が二名以上いると、その親はPTAの会長になれるからとのこと。父は家付き娘の母の二度目の夫であった。私の実の父親は私が三つの時に家を出た。新しい父親が来たのは私が十二の時。馴染めなかった。父のPTA会長就任の件で不仲は決定的になった。卒業式も出なかった。大学進学の際も、補欠合格でもいいから現役で入れという父に対し、自分は浪人してきちんと合格したかった。

そんな気持ちの整理のつかない自分を大学生活で待っていたのは、二度の病気による二回の休学であった。六年いた。暗い家庭と暗い青春。そんな私を慰めてくれたのが、音楽と文学と書であった。

土屋公平先生の音楽の時間はとても楽しかった。教科書以外にもプリントして、シャンソン、カンツォーネ、さらにクリスマスが近づくとプレスリーの「ブルークリスマス」まで。その中でも、シューベルトの歌曲集「冬の旅」からの「春の夢」は、私をドイツリートの世界へと誘ってくれた。大学では第二外国語としてドイツ語を選択し、モーツアルトのドイツ語オペラ「魔笛」からオペラの世界へとさらにのめり込んだ。卒業後一時サラリーマンもしたが、家業を継ぐための条件として、三か月間のヨーロッパオペラ三昧旅行を、父に認めさせた。

しかしながら、永井荷風に倣うかに、帰国後全くの日本文化趣味になってしまった。歌舞伎を見、茶道も始めた。そして小学校三年生の時から何となく続けて来た書道。当時の南高の文系志望の男子は芸術科目を二つ選択出来た。このことはいまでも有難く思っている。書道の荻野正子先生から頂けた南高時代私の唯一の5の評価は、今でも書を続けている原動力になった。書の鑑賞から水墨画の世界へ、さらに日本画全般へと広がっていった。詩を伴うドイツリートは俳句の世界へも導いてくれた。担任でもあった中井春男先生の古文の授業はとにかくユニークで、当時は反発も覚えたが、今では感謝申し上げるばかりである。

今、旅館をそのまま美術館にして、いつまで続けられるか心もとないが、自分の趣味の世界に生きていられる幸せは、父の思惑とはいえ南高へ入学し、本当に良い先生方に出会えたからこそである。自分の子供を持てずに逝った父。もう少しやさしくしてやるべきであったと、忸怩たる思いでこの文章を書かせて頂いた。私の最終学歴は、東京都立南多摩高校卒で充分である。

楽しかった林間学校

昭和 44 年卒　溝口　猛

私が南高に入学したのは昭和41年で、その年の７月と、翌年7月に学校で開催された「林間学校」の楽しかった思い出について記してみたい。

昭和41年、高校１年生の夏は、白馬・八方尾根の山行きとなる。７月下旬のことである。

東京・八王子をバスで夜に発って、甲州街道を甲府、松本と走り、翌朝に白馬に着く。中央高速道路は開通していなくて、約10時間かけて長野県白馬村に行く。ちなみに、中央道は調布・八王子間が昭和42年12月に開通、昭和52年に勝沼まで開通し、全線開通したのは昭和57年であったという。

白馬岳の麓の駅は、信濃四谷駅である（その2年後、駅名が白馬と改称）。信濃四谷から白馬岳登り口の猿倉まで、バスで30分ほど分け入る。猿倉から白馬尻まで1時間半のトレッキングとなる。この辺りは、黒四ダムの扇沢バスターミナルと同じくらいで、約1200mの標高がある。

筆者は右端

私が、北アルプスの万年雪、壮大な雪渓を見たのはこのときが初めてである。白馬尻から雪渓に入ると急速に気温が下がる。雪の上を歩くにはアイゼンが必要で、4本爪のものを装着する。辺りの景色は行けども、登れども一向に変わらない。

頂上のきれいなお花畑を楽しみに、単調な風景

の中を黙々と登るが、そもそもお花畑を眺めるには、白馬尻から雪渓を約5時間も登らなければならない。

登るにつれ天気が良くなり暖かくなったが、約50人の初心者が、お花畑まで登るのは至難の技である。正午を過ぎた頃には、登頂を断念し下山となる。しかし、雪渓を登る体験を味わい、落石や滑落の危険性を肌に感ずることができた。

翌日は、宿泊先の八方山荘からバスで栂池高原に出かける。この辺りは、一帯が冬に名高いスキー場である。午後は、山荘に戻って第1ケルンから第3ケルンと唐松尾根を極めていく。前日に雪渓を登った白馬岳も、迫力ある山容を示す。急な霧のために、八方池前で下山を余儀なくされる。

八方山荘

昭和42年、高校2年の夏は、乗鞍岳・上高地の山行きであった。級友と示し合わせて申込んだ。

7月24日夜から27日の三泊四日の旅で、八王子駅を夜9時に出発する。私が覚えていたのは、上野原、韮崎までであり、それ以降ウトウトしているうちに、早暁の松本郊外・新島々のドラブインに到着した。そこで休憩を取り、乗鞍岳中腹にある宿舎に向かった。

宿舎では持参のおにぎりを食べ朝食とし、乗鞍岳にバスで向かう。いまは道路も整備されているが、その頃は乗鞍岳登山口まで、バスに1時間半も揺られて登った。

乗鞍岳は、北アルプス南部の長野県松本市と岐阜県高山市にまたがる剣ヶ峰（3026m）を主峰とする山である。バスを降りた辺りは、雲が立ち込め、そこからだらだら坂を剣が峰に向かい登る。その途上で、山頂付近の摩利支天岳（2872m）には、乗鞍コロナ観測所が設置されている。

筆者は左端

ゼイゼイしながら、小一時間登って、やっと剣ケ峰に到着したが、雲は相変わらず濃く、眺望は望めない。雲が切れたら、峰からの景色はさぞかしきれいだろうと思えた。早々に下山し、バスを降りたところの休憩所で昼食を食べる。

この日は、当時の皇太子殿下（現上皇・上皇后）の一家が乗鞍を訪れているとの情報が入っていた。何処かでお会いできるかと思っていると、宮内庁職員に守られた一行が、我々の前を歩いて山を登って行く。皇太子殿下・美智子妃殿下、可愛いなるちゃんが現れた。なるちゃんとは、現天皇陛下であり、そのときは７歳位であった。同行した生徒たちは、めったにお会いできない皇室の方々に偶然に会えて、大分興奮した思い出がある。

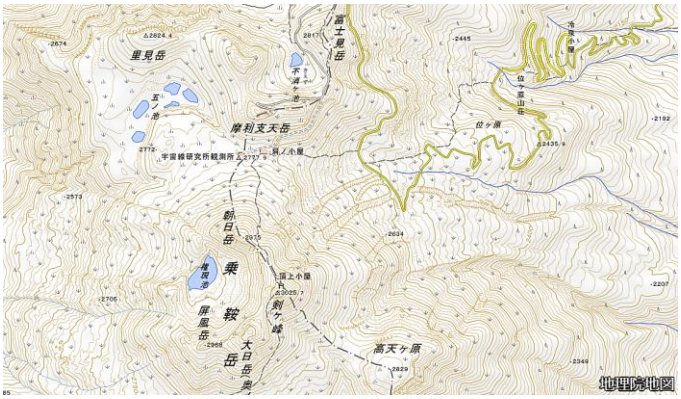
2日目は、上高地にバスで行く。30人位の希望者が、当時は狭かった釜トンネルを通れる小型バスに乗り換えて、大正池、河童橋まで行く。

上高地・穂高岳

釜トンネルを越えると、焼岳を前に大正池の雄大な景色が望める。同行者に野球部員が二人いた。彼らが大正池のこちら側から石を投げると対岸近くまで飛ぶ。さすが野球部である。河童橋に着き、その日はそこ止まりとなる。3日目は、八王子に向かって帰る一日である。

このほか、南高では冬に「スキー教室」、「スケート教室」が開催された。昭和42年の2月頃に白馬村の佐野坂スキー場のスキー教室に、昭和43年2月頃に八ヶ岳パンテスコープ・スケート場のスケート教室に参加したこともあった。

低額の料金で思い出深い体験ができ、情操面でも有意義であったと思う。行事を実施してくれた母校と先生方に心から感謝し、思い出つづりとしたい。



世界を繋ぐ花

元いけばなインターナショナルモントリオール支部プレジデント　古流松藤会正教授
昭和 40 年卒（モントリオール在住）田中（ドランジュビル）和子

３つの愛する国（日本とフランスとカナダ、ケベック州）のアイデンティティーの間を時計の振り子のように行ったり来たりしながら暮らして、36年が過ぎてしまいました。日頃暮らすケベック州は、英語系のカナダの中でフランス語を公用語としている唯一の州ですが、はて、フランスはどこにと首をかしげるほど、ここはアメリカの価値観が浸透し、どちらかといえばフランス語を話すアメリカ人と言えます。日常生活はパリ育ちの古風なフランス人の夫に合わせ、フランス的ですが、年をとるごとに染み込んだ日本の存在を感じています。国際結婚をしている人は晩年はテーブルを二つ（夫の国の食事と和食）に分けると良く聞きます。お国柄というのはどちらも変えられないようです。

華道展オープニングでご主人と

「貴女、外国の言葉ができるんだから、あちらで教えてごらんなさいよ。」

根っから江戸っ子の、気っ風の良い、家元のこの一言を背に受け、剣山と鋏と二冊の本（外国で暮らすと、貴方の日本への見方が変わるだろうから、そんな時には読むようにと、当時の旧フランス給費留学生の会の会長から頂いたブルーノタウトの「日本美の再発見」と岡倉天心の「茶の本」）をスーツケースに入れ、モントリオールに旅だってから長い月日が経ちました。

青空と人々の笑顔の美しいモントリオールに、そのころは日系の方々を中心にひっそりと広まっていた生け花は、1971年いけばなインターナショナルモントリオール支部設立により確固たる日本文化としてこの地に発展することになりました。

いけばなインターナショナルは、戦後のアメリカ占領軍の幹部将校夫人が、いけばなに感動し、世界に広めようと1956年に立ち上げたものです。本部は東京、支部第１号はワシントン、東京支部は第２号です。現在は、世界50か国以上に160を超える支部を持ち、世界にいけばなを広める大きな橋渡しをしています。

文化の普及には時間がかかるものです。そのころは、いけばなはまだ限られた世界のものであったため、デモンストレーションでは、

「この生け花はハウマッチ？これが買いたい。」

「売り物ではありません。創作芸術です。」

「貴女はいつも着物を着ていらっしゃるんですよね。ご主人には毎日お酌をするんですか。僕もしてもらいたいなあ。」

そうなんだ、いけばなは商品で、いけばなの先生は花をいける芸者なんだ。この目の玉がとびだすような、予想外の反応に、ここにどうやって文化としてのいけばなを普及させるかが後の大きな課題となりました。

日本館いけばなインターナショナルの華道展の集合写真

いけばなインターナショナルは、いけばなの普及と文化交流を目的としますので、他流派と共に地元にいけばなの多様な美しさを広め、メンバー同士の交流や他支部との交流を図ります。

「貴女たちは幸せよね、こうして花をいけたり集まったりできるから。私は、国に戻れば銃弾の飛ぶ戦地よ。いつこうして花を手にとれるかしら。」

悲しげに語った、パレスチナからのゲストの一言は世界の現状を見る思いでした。

「明日は、モントリオールのカトリック教会でいけばなのデモンストレーションをするのよ。日本の教会でもローマの教会でもいけたわ。神へ、心をこめてささげるの、日本のいけばなを。」

と語ったのは、パリからのゲストデモンストレーターでした。神様へささげるピュアな心は宗教の違いを越えるものかもしれません。

自宅で：手にしているのは、華道を通じた日本文化普及・振興及び日本とケベックの友好親善に対する功績により、在外公館長(モントリオール総領事館)から授与された表彰状

こうした国際交流の傍ら、地元へのアプローチとしての場を与えてくれたのは、モントリオール植物園日本館での、いけばなインターナショナル定期華道展です。いけばなに興味のある人や始めて見る人など、様々の 人たちが、毎年2000人近く華道展を訪れ、いけばなを眺め、日本への興味を深めていきます。メンバーには腕をふるう大事なお披露目の場でもあります。

いけばなインターナショナルの活動とは別に、個人では、モントリオール市文化週間プログラムの一つとして、Chapelle Bon Pasteurで古流松藤会社中定期華道展を開催してきました。日本の音楽とのコラボで構成する美の世界に焦点をおき、より市井の人々に寄り添うものでした。社中は、国籍様々、仕事や生き方も多種多様な人たちの集まりです。プロデューサーもいれば医者もいれば、臨床心理士もいれば、花好きで世界中の花の追っかけをしている人もいます。日頃の思いをいけばなで表現しなくてはと張り切ります。鳴り響く和太鼓の音に熱狂する観客の向こうに、社中の人たちが活けこんだ花が見えます。ここはヨーロッパのクラシック音楽をモントリオールに伝えてきたコンサートホールです。華道展開催条件はただひとつ、日本の音楽をプログラムに入れるようにと言うことでした。

この10年に渡る古流松藤会定期華道展での様々な人との出会いの中で最も記憶に残ったのは、あるロシア女性との出会いでした。コットンの花をどうしても活けたいと言っていたロシア人の生徒のいけばなの前でフリーズしたように1時間、不動で眺め続ける女性がいました。生徒から、ロシアでは剣山といけばなの鋏は女性なら誰でも持っている、それほどいけばなは ロシアではポピュラーなのだと聞いた時には驚きましたが、それにしても、初老のこの女性は何故これほどこの生け花の前で立ち続けるのか。

「お花、お気にいられましたか？」

「コットンなのよ、このコットンはロシアの歴史なのよ。スターリンそのものなのよ。」

「この生徒もロシア人ですよ。」

「強制労働でコットン摘みをさせられていたのよ。ノルマができなければ学校に戻れなかったのよ。肉もパンも碌に食べられない時代だったわ。今は平和な時代になって良かった。」

素晴らしいフランス語を話す女性でした。生徒にその話をすると、

綿花

「父は、コットン摘みの監督だったのよ。暗くなるまで少女たちと一緒にコットンを摘んでいたわ。私の家の前は見渡す限りのコットン畑だったの。ロシアからもって来たこの剣山でこの花をどうしても活けたくていけばなを始めたのよ。」

知らない所で歴史は回り、いけばなはそれを解きほぐしてくれたかのようでした。

窓の外は雪景色

日本のいけばなは、こうして一本の花を通し、活けた人の思いを伝え、静かに幾重にも繋がり、国境を越え、新しい世代や社会へと世界を広げていると言えそうです。

私を育ててくれた言葉　I Love Basketball

昭和 54 年卒　大熊（河野）　徳久

今回縁あって寄稿の依頼を受けたのですが、何を書いて良いのか悩みに悩んだ結果、私を育ててくれた言葉について書いてみることにしました。

私は38年間ミニバスケットボール（以下ミニバス）に携わってきました。その間、多くの方々と出会い、多くの言葉を交わしました。その言葉の中から、バスケットを続けるキッカケとなった言葉、今でも大切にしている言葉を三つほど紹介します。これだけ長期間指導していると、良いことばかりではなく、嫌になったり面倒になったりすることがありますが、そのような時に思い出す言葉です。それらはどれも私を大きく成長させてくれた言葉なのです。

まずはミニバスとの出会いについて触れさせていただきます。

八王子市役所に入り、最初の配属は小学校でした。そこでミニバスを指導していた西山先生から「一緒にやりませんか」と声をかけていただき、指導者としてスタートしました。八王子市のミニバスは都内ではトップレベル、そのチームも市内だけではなく都内でも有数の強豪チームでした。しかも先生は当時バラバラだった東京都のミニバスをまとめるために都の役員となり、その後は全国そして日本バスケットボール協会（ＪＢＡ）で活躍されることとなったのです。そのような中、西山先生のもとでお手伝いさせていただき、中学校、高校、社会人など日本バスケットボール協会で活躍している方々と出会い、都内だけでなくJBAでユース育成の仕事に関わる機会も得ることができました。また、ミニバスの指導本の監修までさせていただきました。ですからこの出会いには本当に感謝しています。

さて、38年間の指導歴で忘れられない『言葉』です。

一つ目です。

指導を始めて６年目、当時の都ミニバス連盟には日本公認審判がいませんでした。そこで、連盟理事長からの薦めで私と他の3名の指導者が審判資格取得のための勉強に行きました。普段は小学生を指導している私にとって、高校、大学、一般社会人の審判をすることはルールもレベルも違い過ぎて難しく、自信を失いつつありました。そんな時に先輩審判からかけられた『言葉』です。

「審判は明日もできる。でも、選手の試合は今日だけだよ。選手のために今日の審判を精一杯やろう。」「上手じゃなくても良いじゃないか。選手たちがあの審判で良かった！と言ってくれる素晴らしい審判を目指そうよ。」

という責任と優しさを教えてくれた言葉でした。今考えると、普通に審判をすることよりも大変なような気もしますが、今でも審判をする際には大切にしています。

二つ目です。

10数年前、コーチとして来日していたトーステン・ロイブル氏との出会いの中で学んだ『言葉』です。当時、トーステン氏は日本のユースの育成のため、全国を行脚していました。そして私はその補助をしていました。それまで私は「勝つこと。勝たせること。」が最重要と考え指導していました。しかし、トーステン氏は行く先々で子供たちに対して最初に「バスケットボールは好きですか？」と声をかけ、みんなで「I Love Basketball」と叫んで練習をスタートさせるのです。ある日、講習会の終了後にトーステン氏から「日本の子はみんなうまい。でも・・・、本当に大切なことを教わっていないと思う。それは『コーディネーショントレーニング（運動能力開発）』だ、ゴールデンエイジ（8～12歳）は戦術ではなく必要な運動能力を身に付けるべきだ。」と言われたのです。（今では練習内容に必ず取り入れています。）さらに

「でも、**一番大切なことは、I Love Basketball。楽しむことだよ。**」

と教わりました。『40の手習い』ならぬ『50の手習い』でした。（これがきっかけだったのかは分かりませんが、トーステン氏のDVD作成で、チームの子が使われたことはうれしかったですね。）それ以来「勝った！負けた！」に関係なく、できるだけ楽しくバスケを指導するように心がけました。「勝つこと、勝たせること」を目標にしていたときにも何度か全国大会に出場しました。しかし、「子供たちは楽しかったのかな？」と少し不安を感じるところもあります。私の意識が変わったこの10数年はチーム状態も安定し、2年前には20年ぶりに全国大会に出場しました。大会中、楽しそうにプレイする子供たちの顔は最高でした。

三つ目です。

38年間もやっていると指導や役員をやめたくなることも多々あります。そのような時によく思い出した『言葉』です。それは

「やめることは簡単。必要とされている間は兎に角続けること。」

という父からの一言です。還暦を迎えた今、チームには教え子の子供たちも入部してくれています。これも『必要とされている』ことの証かと捉え、もうしばらくは孫

のような子供たちと一緒にバスケットボールを楽しみながら続けて行こうと思っています。

学生時代は決してマジメでもなく、何をやっても長続きしない中途半端な生徒でした。でも、ミニバスケットボールというスポーツに出会い、たくさんの人に出会い、ここまで成長し、続けることができました。皆さんもきっと多くの人たちと出会い、たくさんの言葉を交わし、何かのキッカケを掴んだり、勇気をもらったりしてきたことでしょう。逆に皆さんの言葉が誰かにキッカケを与えたり、勇気を与えたりすることもあると思います。これからも出会いや言葉を大切にしていきたいですね。私も南多摩の卒業生としてまだまだ成長し続けたいと思います。

大熊徳久さんのプロフィール

昭和５８年八王子市立長房小学校でミニバスケットボールの指導をスタート。以来、大和田ミニバスケットボールクラブ、陶鎔ミニバスケットボールクラブでコーチとして子供たちの指導に当たり、計４回の全国大会出場を果たしている。八王子市、東京都、日本のバスケットボール連盟や協会の重要な役職を歴任し、ミニバスケットボールの指導書「基本と能力アップドリル」「個人技とチーム力向上ドリル」を監修するなどバスケットボールの発展・普及に貢献してきた。

令和3年2月現在、日本バスケットボール協会（JBA）公認のB級コーチ、C級審判、3級審判インストラクター。東京都バスケットボール協会強化育成U-12担当、U-12部会技術委員。八王子ミニバスケットボール連盟副理事長。

あかね会の同窓会活動・母校支援について

◆令和２年度あかね会総会は中止に

令和２年度の「あかね会定期総会」は５月 17 日(日)に予定しましたが、「新型コロナウィルス」の感染拡大により、やむなく中止となりました。

定期総会に代えて、あかね会常任委員の皆様に総会議案書を送付し、返信ハガキでご承諾いただくこととしました。議案書を、５月８日に 69 名の常任委員に送付し、５月 20 日までに 57 名（83%）から返信があり、全ての方のご承認をいただきました。

その内容を紹介しますと、一般会計の令和元年度決算（支出）は、総会・行事費 79 万円、常任委員会費 10 万円、広報費 273 万円、母校支援費 87 万円、慶弔費２万円で 451 万円でした。また、南多摩 110 周年・中等創立 10 周年記念事業に充てる特別会計の決算（支出）は、母校備品等寄贈が 310 万円、記念式典・祝賀会費が 355 万円の 665 万円となりました。支出総額は 1,116 万円と多額の決算となりました。なお、前年の「南多摩 110 周年・南多摩中等教育学校創立 10 周年記念募金」では、南多摩ＰＴＡ及び南多摩ＰＴＡ・ＯＢ会の協賛金 120 万円を含め、合計 482 万円の募金協力をいただき、感謝申し上げます。

また、令和２年度の予算（支出見込額）は、総会・行事費 55 万円、常任委員会費 13 万円、広報費 270 万円、母校支援費 105 万円、慶弔費３万円の 446 万円を計上しました。役員選任はありませんでした。

◆令和２年度のあかね会活動紹介

令和2年度のあかね会活動は、常任委員会の開催を見送り、役員会を開催して活動を進めました。

あかね会常任委員会開催状況

開催月日	議　題　等
総会議案の送付 ５月８日	○総会の中止と議案承認依頼 ○令和元年度事業実績・決算 ○令和２年度事業計画・予算
議案の承認 ５月 20 日	○議案送付　69 件　○議案承認数 57 件　○議案承認率　83%
第１回役員会 ６月 20 日	○あかね会会報の発行 ○総会議案の承認状況 ○納涼会・南魂祭参加の中止
第２回役員会 11 月 14 日	○あかね会新年会の中止 ○令和３年度の会報発行計画
第３回役員会 １月 23 日	○令和３年度会報発行・広告依頼 ○令和３年度定期総会の準備
第４回役員会 ２月 27 日	○会報の広告結果、会報の編集 ○令和３年度定期総会の進め方

◆会員名簿を有償頒布します

あかね会は、会員相互の親睦・研修と母校の支援活動の充実に努めています。3年前の2018年2月に同窓生のつながりを確かなものとするため、会員名簿を10年ぶりに発行しました。発行は、実績と信頼のある業者に調査・作成を依頼し、約1500名の方々にご購入いただきました。会員名簿を、同期会やクラス会開催の折にぜひご活用いただければ幸いです。

なお、会員名簿に若干の残部があります。ご購入ご希望の方は有償（送料込4,600円）で頒布します。

⇒連絡先　　溝口　猛【電話】090-6489-5939

創価大（壁面）

港区立芝浦小（床と階段）

ミャンマーチーク販売　株式会社
〒160-0023　新宿区西新宿3-8-4　BABAビル1F
http：//www.myanmar.co.jp　☎03-5333-3055
代表取締役　臼井成美　取締役　臼井実千恵（旧姓 岡村／昭和46年卒）

学校法人 片柳学園
理事 黒須隆一【昭和35年卒】

東京工科大学
日本工学院専門学校　日本工学院八王子専門学校
日本工学院北海道専門学校　東京工科大学附属日本語学校
www.katayanagi.ac.jp

不動産業（賃貸マンション・貸倉庫）
石田倉庫のアートな2日間

石田産業有限会社

代表取締役社長　石田 高章
常務取締役　石田 菊江（昭和27年卒）

〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F
TEL：042-522-2406　FAX；：042-525-0483

有限会社 保寿産業

代表取締役　小川 禎子（昭和 31 年卒）

〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32
TEL：042-526-2646　FAX：042-629-7500

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士 空衣（そらい）事務所

相続登記はお早めに！⇒ リモート相談受付中
代表 入沢 修自（平成5年卒）
〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話：042-389-5570 Fax：042-389-0755
http://www.sorai-law.com

TKC. KFS 推進事務所

税理士法人 西東京会計

代表社員　加藤 晃（昭和38年卒）

〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL：042-644-1771　FAX：042-645-7372
http：//www.tkcnf.com/ntk/

冷凍食品で楽しい給食　病院、施設の給食品専門問屋

増田屋
株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎／増田敦子（旧姓 土屋）（昭和34年卒）
〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL：042-654-2222　FAX：042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com
mail：info@masudaya1965.com

一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司（昭和44年卒）

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話：042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail：hamanaka@tokyo.email.ne.jp

NPO法人
八王子・台湾友好交流協会

理事長　黒須隆一
（昭和35年卒）

〒192-0046 八王子市明神町3-11-11-601
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

心のふるさと
祈りのお山
高尾山

薬王院 前山主　大山 隆玄（昭和28年卒）
山　主　佐藤 秀仁
http：//www.takaosan.or.jp

グループホーム
びおら

高齢者認知症の方の共同生活
介護を提供しています。

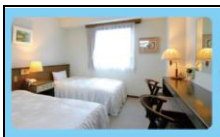
齊藤　万理子（昭和44年卒）
〒192-0056八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
http：//www.biora.biz

コンピュータソフト開発＆運用

（有）ライズ

代表取締役　中村 晋也（昭和53年卒）

〒192-0066 八王子市本町30-6（N-Twoビル3F）
電話：042-620-5425　FAX：042-689-4149



@ホーム宿　南多摩高校　平成３年卒業

ホテルベル鐘山
富士山リゾート＆ビジネス

【アットホーム宿　ホテルベル鐘山の３つのホッと♪】
1. スタッフの笑顔と温かいおもてなしにホッと♪
2. 美味しいご飯にホッと♪
3. バナジウム天然水で湯浴み☆お部屋でホッと♪

歌手 伊達めぐみ

Tel 0555-24-8888 山梨県富士吉田市上吉田東 9-8-10
(有)オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局　八王子市中野上町 5-14-1 TEL 042-622-9932

Sankyosha
刷新ing
お任せ下さい！印刷のすべて。
取締役副社長　野口　冨巳子（昭和35年卒）
有限会社　三共社
〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1
TEL.(042) 625-8325　FAX.(042) 625-8369
http://www.san-p.co.jp

高級オリジナルニット
色彩の魔術師
齋藤都世子作品ルーム
浅野　常子（昭和34年卒）
〒192-0904 八王子市子安町3-32-10-106
☎・FAX：042(646)9833／090-1422-1192
https://www.saitoknit.com

伊藤税務会計事務所
税理士 伊藤　正啓
伊藤　幸子（昭和32年卒）
〒192-0045 八王子市大和田町３－６－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

医療法人社団　大島会
大島耳鼻咽喉科クリニック
院長 大島 清史／副院長　澁谷　正人
大島 富子（昭和25年卒）
〒192-0046 八王子市明神町 4－5－9
TEL：042-642-8012
http://www.oshima-ent.com

ISO 9001 認証取得
エコアクション 21 認証取得
黒須建設株式会社
代表取締役社長　黒 須 光 隆
取締役　黒 須 俊 輔（平成20年卒）
本社　〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代)　FAX 042-642-5314
http://www.kurosu-kensetsu.co.jp

NAKANO
学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園
なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。
〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
理事長 中村　健(昭和 46 年卒)

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。
社会福祉法人　相友会
浅川 長房 西諏訪
保育園
諏訪 のぞみ乳児園
理事長　村松 一恵（昭和 28 年卒）
法人本部〒193-0812 八王子市諏訪町５ TEL：042-651-4555

診療時間 [午前] 9:30～13:00 [午後] 15:00～19:00 (土曜は18:00まで)
糠信歯科医院
院長　糠信　安宏(南多摩中等教育学校歯科校医)
糠信　和代(昭和29年卒)
八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前)
電話：042-642-3131〔休診日：木曜・日曜・祝祭日〕

損害保険、生命保険代理店
代理店を通じて皆様のネットワーク作りのお手伝いします。
有限会社 保険のイッツ
代表取締役　一宮　龍之(昭和45年卒)
TEL：042-587-3808　FAX：042-587-3813
mail:y-its3808@viola.ocn.ne.jp

世界遺産"日光"を戦火から救った石坂弥次右衛門義禮の眠る
曹洞禅宗　萬松山 興岳寺
東堂　土井　俊玄（昭和29年卒）
〒192-0835 八王子市千人町 1-2-8
TEL:042-661-5268　FAX:042-661-5357
●読経会(法話を含む)毎月第1土曜日午前10時より　●茶道教室(表千家流)毎月第3土曜部午後1時より
●写経会　毎月第3土曜日午前10時より　●煎茶道教室(清泉幽茗流)毎月第3土曜部午後1時より

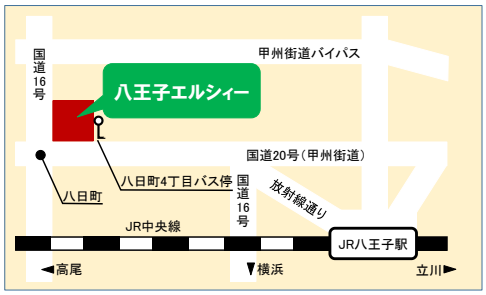
食品プロの御用達市場
八王子総合卸売センター㈱
取締役会長　佐藤　美千枝
(旧姓 勝田　昭和21年入)
〒192-0906 東京都八王子市北野町 584-30
TEL：042-645-6500　FAX：042-644-1411

「令和3年度あかね会定期総会」について

南多摩同窓会あかね会は、毎年、5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。（「南多摩同窓会あかね会」規約第7条）

毎年、定期総会に続き、卒業生などを講師とした講演会を開催し、そのあと新入会員の紹介、懇親会を開催します。定期総会は、現在の母校を知る機会であり、共に学んだ仲間との再会、先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

なお、新型コロナウィルス感染症の感染拡大の状況により、総会を急きょ中止する場合がありますことを、ご承知おき願います。



八日町交差点角（八日町４丁目バス停下車）

令和3年度　定期総会

【日時】令和3年5月16日（日）　11時～
会場受付　10時30分～
【場所】八王子エルシー【八王子駅　下車バス5分】
八王子市八日町6-7　☎042-623-2111
【懇親会費】5千円（学生2千円）
（会費は当日徴収します）

【プログラム】
総会　11時～11時40分
事業報告・決算、事業計画・予算
その他

講演会　11時50分～12時30分
和田　智竹氏（平成23年卒業）
2018年11月～3月、南極地域観測隊に参加
演題　「南極で暮らす知られざる生物」
懇親会　12時40分～
昼食（お弁当）で懇親【お持ち帰りも可能です】
【申込方法】常任委員を通じてお申し込みください。
又は、下記へ5月8日（土）までご連絡ください。
【メール】mail@akanekai.org
【電　話】　山口久美子　☎090-1214-7484
溝口　　猛　☎090-6489-5939

「学校支援協力金」のお願い

会報「みなみたま」第12号の発行は、卒業生会員（約3万名）のうち物故者、消息不明の方を除いた1万5,500名の方にお送りしました。

「学校支援協力金」は、同窓会として在校生の学習、部活動、進路指導、卒業生への卒業証書フォルダーの提供などを積極的に支援するとともに、同窓会の活動の継続を目的に、卒業生の皆様にご協力をお願いするものです。

学校が中等教育学校となり、在校期間が6年間になり卒業生が1/2に減少したことに伴い、卒業時に納入いただく同窓会会費も半分に減少しています。1口千円で、なるべく2口以上をお願いします。

本年度から、協力金の払込みは、郵便局のほか、コンビニエンスストア（2千円の払込みに限ります）からもできますので、ご協力をよろしくお願いします。

ご協力は任意ですので、お志のある方は可能な範囲でご協力をよろしくお願いします。

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当にご連絡ください。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町4-20-1
都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

【編集後記】

昨年から続く新型コロナウィルス感染症の影響は、私たちの日常生活を一変させた。学校生活への影響も大きく、緊急事態宣言下では自宅学習を余儀なくされ、学校行事も中止が相次いだ。同窓会も予定していた行事はできないまま一年が過ぎた。一年延期したオリンピック・パラリンピック2020東京大会は、外国からの観戦者を受け入れないで行われることが決まった。ようやく感染拡大の大きな波は超えたように見えたが、再び感染拡大の兆しが続き予断を許さない状況が続いている。それでも、太鼓部の皆さんから届いた年賀状には、苦しい中を支えてくれた周囲の人への感謝とともに、東京都の大会で上位に入り関東大会の出場が叶った喜びが綴られていた。私たち卒業生はそんな在校生にどんな形でエールを送れるだろうか。今は「南魂」を信じて静かに見守ることしかできそうもないが、負けるな、逞しくと願う。（菱山）